

8月6日(日)発行

MUZA
KAWASAKI
SYMPHONY HALL

ほぼ

日刊サマーミュージック



Hobo Nikkan Summer Muza

弾き分け/聴き分けの楽しみ バッハ、ここに極まれり!



8/5 真夏のバッハ VIII

©T.Tairadate

「真夏のバッハ VIII」はフェスタサマーミュージック KAWASAKI 2023の約20公演の中で、もっとも贅沢な演奏会である、と言い切ってしまうとよい。ホール正面の大オルガンは準備万端、舞台上にはポジティブ・オルガン、チェンバロも並ぶ。大塚直哉や桐山建志など腕利きが、バッハだけを弾く。

空間の使い方にも余裕がある。音楽家は舞台の前後、さらには高低もうまく使って演奏を繰り広げる。ミュージアの客席はステージを取り囲むヴィンヤード形式だが、その奏者側のブロックには人を入れない。聴き手はみなもっとも響きの良い場所に腰を下ろす。

プログラムに並ぶのはバッハ作

品の中でも、名の知れた、もしくは傑作の誉れ高い曲ばかりだ。二短調のトッカータとフーガ、〈イタリア協奏曲〉、無伴奏ヴァイオリンのための〈シャコンヌ〉、管弦楽組曲第3番の〈エア〉。編成も曲種もとりどりで、「次は誰が何を演奏する?」とわくわくした気持ちが続く。

それにしても、大塚が大小のオルガンとチェンバロを代わる代わる、ほぼ休みなく弾き続けるのには驚かされた。発音機構も鍵盤の感触も音楽の作り方も、ずいぶん異なる三者。それを一晩ですべて扱うのは並大抵のことではない。

演目最後の協奏曲二短調では、3つの楽章をそれぞれチェンバ

ロ・小オルガン・大オルガンで披露。この協奏曲はもともとヴァイオリン用に書かれ、いったんオルガン用に編曲されたカンタータ楽章のチェンバロ再編曲なので、楽想はどの楽器でもしっくりくる。弾き分け/聴き分けの楽しみがここに極まっていた。

(澤谷夏樹/音楽評論家)



プレトークの様子

左：桐山建志(ヴァイオリン)

右：大塚直哉(パイプオルガン/チェンバロ)



出演者一同、終演後バッハを取り囲んで

ご来場者の声

オールバッハの企画もよかったし、ミュージアの素晴らしいパイプオルガンを何曲も聴けた上、チェンバロとポジティブオルガンを並べて聴き比べできたのが、滅多にない素敵な機会でした。埼玉から伺って、よかったです。アンコール曲も嬉しかったです。(60代・非常勤講師(高校)・nokko) / 3種類の鍵盤楽器に着目した企画といい、有名曲も交えてのバランスの良い構成といい、秀逸なプログラムでした。真夏のバッハは毎年楽しみにしていますが今年も期待を裏切らない内容で大満足でした。(60代・おけらマン) / 曲目がめちゃくちゃよくて、終わりにブラボー2回言ったし、アンコールの曲も知ってる曲でめちゃくちゃよかったです。感動した。(10歳未満・小学生・ゆう) / バッハの名曲揃い! しかもパイプオルガンだけでなく、チェンバロ、ポジティブオルガン、弦楽器との演奏でとても楽しめました。ホールがまるで教会の様になり、猛暑を忘れ敵かな雰囲気になりました。(60代・無職・ミッキー) / 子どもの頃、オルガンを弾いていたのを思い出しました。今度はパイプオルガンを弾いてみたいです。楽しい時間と思い出をありがとうございました。(30代・看護師・さゆり)

Next!
サマーミュージック
明日のチケット情報

[料金] 全席指定 ¥1,500

当日券あり
Tel・Web予約
▶ 当日 16:30 まで
当日券カウンター
▶ 17:30 より

昭和音楽大学

若き音楽家たちが祝う、ラフマニノフ生誕150周年

8/7(月) 18:30 開演

(17:45開場)
会場：ミュージア川崎シンフォニーホール

- モーツァルト：交響曲第32番 ト長調
- フォーレ：ドリー組曲 (H. ラポーによる管弦楽編)
- ラフマニノフ：交響的舞曲

昭和音楽大学管弦楽団
テアトロ・ジーリオ・ショウワ・オーケストラ



指揮：時任康文

サマーミュージック
オリジナルグッズ
好評発売中!

ホール1Fショップ
または、2F特設販売所にて
サマーミュージックグッズを
取り扱っています。



グッズ詳細はこちら



芳醇なオーケストラ音楽を愉しむ



8/5 東京交響楽団
出張サマーミュージザ@しんゆり!

© N.IKEGAMI

「昭 和音楽大学 テアトロ・ジーリオ・ショウワ」での広上淳一指揮/東京交響楽団の公演。このホール、久々に来たような気がする。1曲目、ドリーブの「コッペリア」が始まった瞬間に驚いた。弦楽器の音がえらく豊潤で美しい。これは記憶にないサウンドだ。ホールの音響に手が増えられたのか？ 東響の実力の賜物か？ それともコンサートマスター・小林孝成の手腕なのか？ はたまた広上のなせる技か？ と「？」が多々湧き出

すが、音が良くて悪かろうはずはない。その後は芳醇なオーケストラ音楽を素直に愉しむ。

広上は、「コッペリア」から生気と躍動感を引き出す。語り口が上手いし、間合いも絶妙だ。中でも、「ワルツ」「マズルカ」「チャルダッシュ」など、お馴染みの旋律を持った舞曲の弾みが心地よい。

後半のラフマニノフの交響曲第2番は、本作特有の悠揚たるロマンや変幻するダイナミズムが明快な構築で描かれていく。

ここも弦楽器をはじめとする柔らかな響きが、楽曲の魅力をアップさせる。特に第3楽章のしなやかな歌が素晴らしく、甘美な中にも品のある音楽が陶酔をもたらす。

豊潤な響き一しかも音が前に来るので迫真性も事欠かない一は最後まで続いた。最初の疑問の答えは出ないまま。だが、今後は「出張サマーミュージザ@しんゆり！」にもっと注目していきたいと思うことしきりだ。

(柴田克彦/音楽評論家)



右：広上淳一(指揮)
左：小林孝成(コンサートマスター)

ご来場者の声

コッペリア & ラフマニノフ 最高一。東響メンバーの一条乱れぬパワフルな演奏は、まるで、力を合わせて大海原へ漕ぎ出していく、巨大豪華客船の乗組員のようでした。広上船長に拍手！！(30代・代表戸締役・せかんど) / ストリングスが清んでいて美しく心安らぎました。(50代・会社員・Uncle) / ラフマニノフの2番を途中で寝ることなく初めてちゃんと聴けました。広上さんの指揮、東京交響楽団の演奏がとても素晴らしく眠気も感じませんでした。素晴らしい演奏をありがとうございます！(50代・介護支援専門員・あしも) / ラフマニノフ素晴らしかったです！(20代・大学生・ありあり) / コッペリアが良かった。指揮者の広上さんもとて音楽を楽しんでいて、踊っているようだった。(40代・匿名)



パートナーショップのご紹介
エンジョイ!!
川崎!!
Enjoy Kawasaki

鯉節専門店にんべんが手掛ける「一汁旬菜日本橋だし場」さん。旬の野菜にだしを利かせたお弁当とお惣菜、また鯉だしやだし醤油なども販売しているテイクアウト専門店です。

人気No.1の「かつおづくし弁当」(写真)は、だし炊込ご飯や旬の野菜の煮物、厚焼玉子

「鯉だし」を堪能できる 鯉節専門店

そしてメインには鯉カツの入った豪華なお弁当! 「本格鯉節」と「だし餡」を好きなだけおかずや炊込ご飯にかけて食べることができます。まずは一口と思い食べ始めた炊込ご飯。気付いた時には半分に! 慌てて追い鯉節を! 残りは贅沢に鯉節たっぷり頂きました。コンサートの帰りにぜひ、ラゾー

ナ川崎プラザ1F「一汁旬菜日本橋だし場」さんへお立ち寄り下さい。(受付・は)



パートナーショップ特典

お弁当・お惣菜10%引き

※優待券持参者および同席者 ※10時~17時の間

★ パートナーショップ優待券のご利用は 8月11日(金・祝)まで! ぜひご利用ください★



かつおづくし弁当 ¥1,200(税込)

日刊サマーミュージザ
は Webでも公開中!



フェスタサマーミュージザ公式サイト
https://www.kawasaki-sym-hall.jp/festa/

#サマーミュージザ
#お待ちどうサマー♪
で検索 & 投稿
お待ちしております!



Twitter: @summer_muza

Facebook: @kawasaki.sym.hall

Instagram: @muzakawasaki



私がサマーミュージザに最初に関わったのは2006年、あるオーケストラ事務局の制作として。あれから17年……。まさか4月からミュージザ川崎シンフォニーホールの事業企画課で働く事になるうとは! その当時から変わらず、高いクオリティの演奏を出るだけ安価な値段で楽しんでらおうというコンセプトのもと出演してくださる各団体・アーティストのみならず、ご協力、誠に有難うございます。おかげサマーで今年で19回目、来年は20回目を迎えるようとしています。今年のサマーミュージザもいよいよ後半戦。お暑い中にもかかわらずご来場いただきお客様への感謝を忘れず、引き続きスタッフ一同、皆様のご来場をお待ちしております。その際よろしければホール入り口付近のイケメン作曲家達との映像写真撮影を、そして期間限定とはいえ3年半ぶりに復活したドリンクコーナーで喉を潤し、ついでにオリジナルグッズコーナーも冷やかし、公演後(前でも)はパートナーショップで美味しい物を食べながら川崎の街も満喫してお帰り頂ければ嬉しいです。(事業企画課H)

スタッフ日誌